

**Key Issues :** 地域産業の振興  
 生物多様性  
 発電による便益

**気候区分 :** 温帯湿潤気候

**主題 :** ダム周辺環境整備と観光開発

**効果 :** 観光開発による地域活性化



**プロジェクト名 :** 御所ダム

**国 :** 日本、岩手県 (アジア)

**G P 実施機関 :** 国土交通省

**G P 実施期間 :** 1973 ~

**キーワード :** 周辺環境整備構想, レクリエーション空間, 地域振興

**要旨 :**

御所湖周辺は、御所湖広域公園の整備と高速交通網開通等の恵まれた立地環境が相乗し、観光レクリエーション基地として毎年多くの観光客が集まってくる。これは、ダム建設当初から国、県、市、町そして地域住民が一体となって取り組んできた成果と考えられる。

**1. プロジェクトの概要**

東北第一の北上川の右支川雫石川に建設された御所ダムは、洪水調節、かんがい、上水道、発電を目的とした多目的ダムであり、盛岡市繫地内にある。御所ダムは、1972年4月に本体工事に着手し、10年の歳月をかけて1982年3月に竣工している。

雫石川は、その源を岩手、秋田両県境の奥羽山脈に発し、東流して葛根田川を合わせた後雫石川と呼ばれ、更に東流し、御所ダム貯水池内で南川を合わせ、ダム下流12kmの盛岡駅南側で北上川に合流する。その幹線流路延長は約40km、流域面積約782km<sup>2</sup>、年間総流出量14億m<sup>3</sup>と、豊富な水量を誇る河川である。その周辺は、牧野や温泉などの素朴な風土に恵まれ、遠景には岩手富士と呼ばれる岩手山をはじめ南八幡平の美しい山並みが広がっている。

いま、御所湖周辺は恵まれた立地環境と御所ダムの完成、高速交通網の開通、御所湖周辺の整備、開発が相乗し、観光レクリエーション基地として脚光を浴びている。

御所ダムは、右岸側がコンクリート重力式で、左岸側が中央コア型ロックフィル式の複合形式である。御所ダムの諸元を表-1に、位置を図-1示す。

**表-1 御所ダム主要諸元**

項目	諸元	
水系	北上川水系雫石川	
集水面積	635km <sup>2</sup>	
ダム	形式	コンクリート重力式、中央コア型ロックフィル式の複合形式
	堤高	52.5m
	堤頂長	327.0m
	堤体積	コンクリート:22千m <sup>3</sup> フィル:98千m <sup>3</sup>
貯水池	総貯水容量	65,000千m <sup>3</sup>
	有効貯水容量	45,000千m <sup>3</sup>
	利用水深	9.8m
発電	事業者	岩手県企業局
	運開年月日	S56.1.1
	最大出力	13,000kW
	最大使用水量	60.00m <sup>3</sup> / s
	有効落差	27.32m

## 2. プロジェクト地域の特徴

御所湖周辺は、北の岩手山、北西に駒ヶ岳、南の東根山山地に囲まれた火山性丘陵地帯である。この丘陵や山地の麓は、平坦な盆地となり、雫石川等の河川によって河岸段丘や谷底平野を形成している。御所湖は、この谷底平野を堰き止めた人工湖であり、その周辺は河岸段丘となっており、湖岸から遠方の山並みが望めるなど眺望の点でも恵まれた地形条件を有している。下流上空から望んだ御所ダムを図-2に示す。

また、湛水面積 6.4km<sup>2</sup>の御所湖は、こうした地形条件から比較的水深の浅い部分が多く、そのため渡鳥等の飛来地にもなっている等、動植物に広大な生息の場を提供している。

周辺の植物ではカラマツ、アカマツ、スギの他、コナラ、クリ等の雑木林など二次林と、草原、湿地等が分布し、河畔にはヤナギ、サワグルミ等の植生が見られる。動物では鳥類が多く変化に富んでおり、カモ類 30 科 80 種が報告されている他、冬期には白鳥が飛来し、氷上ワカサギ釣りに訪れる人とともに賑わっている。

以上のような自然環境が御所湖の景観を形成し、四季折々に貯水位の変化とともに、多様な表情を見せてくれる。

また、御所ダムは、北東北の拠点都市である盛岡市からも近く、その距離の近さもあって盛岡市を中心とする都市近郊の自然豊かなレクリエーション空間として位置づけられている。御所湖周辺の施設配置図を図-3に示す。

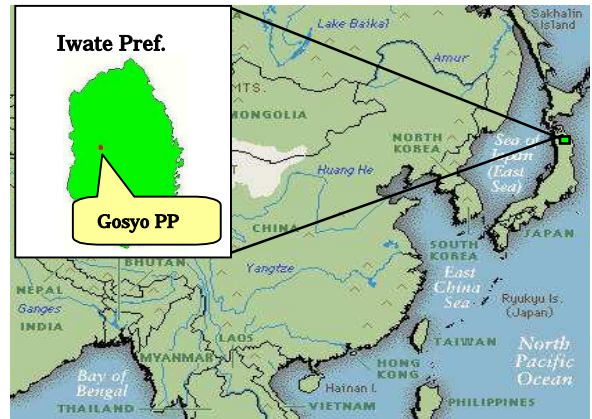


図-1 御所ダム 位置図



図-2 下流上空から望んだ御所ダム

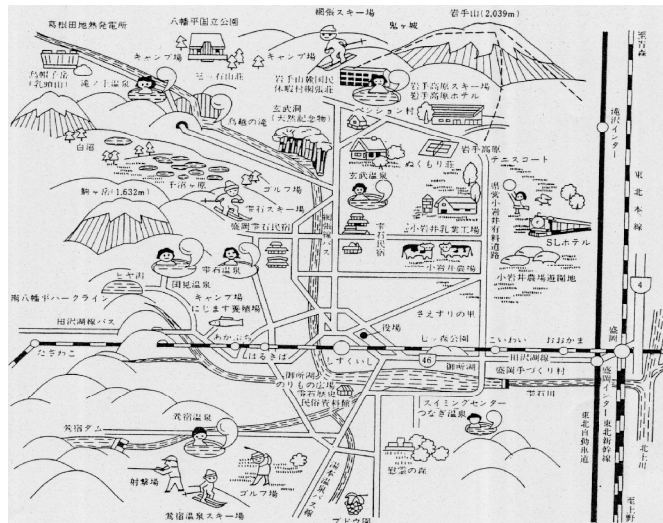


図-3 御所湖周辺施設配置図

### 3. 便益

御所湖周辺は、御所ダム建設計画当時から、前述の特筆すべき周辺環境や東北新幹線、東北自動車道等の高速交通網の整備に伴い、観光開発や増大する日常レクリエーション需要の適地となることが見込まれた。

このため、ダム周辺を乱開発より守り健全な憩いの場として良好な環境を維持することが必要との考えから、ダム本体工事着手の翌年の1973年5月に岩手県、盛岡市、雫石町の3者による出資で(株)御所湖開発協会が設立され、御所湖周辺の環境整備が具体化することとなった。

#### (1) 御所湖開発協会

この協会では、河川管理者である建設省(当時)を含めた4者で「御所ダム周辺環境整備基本構想策定連絡協議会」を組織し、1979年6月に「御所ダム周辺環境整備構想」を樹立した。

これと平行して、同協会では御所湖の湖底に沈むことになる砂利の採取・販売を行い、売却益を財源に、御所湖畔と一体として保全の必要な周辺用地の先行取得や、建設省(当時)が整備構想に基づいた基盤整備を行った地区並びに先行取得した土地の施設整備等を実施している。

同協会が実施した主な事業は表-2のとおりである。

表-2 御所湖開発協会が実施した主な事業

事業内容	
・土地の先行取得	8.7ha
・自然林の整備	2.6ha
・桜園の造成、植樹	2.0ha, 桜など1095本
・水生植物園の造成、植栽	0.56ha
・御所湖スポーツパーク (野球場、テニスコート等)	6.8ha
・わんぱく広場の整備	2.0ha
・天沼グリーン広場	9.8ha

#### (2) 基盤整備

建設省(当時)では、「御所ダム周辺環境整備構想」に基づき、河川予定地内についての基盤整備をダム建設工事の中で実施している。基盤整備の対象は、12地区41.3haの整地、緑化、管理用道路等と、2地区の桜の植樹による憩いの場の創出等である。基盤整備事業の内容を表-3に、実施箇所を図-4に示す。

表-3 建設省(当時)が実施した基盤整備事業

事業内容	実施地区		
	整地、緑化、管理用道路、管理堤	左岸	下久保、野中、兎野、尾入野
	右岸	矢川、天沼、戸沢、戸沢川、町場、除、繁、片子沢	
植樹(桜)	下久保、尾入野		

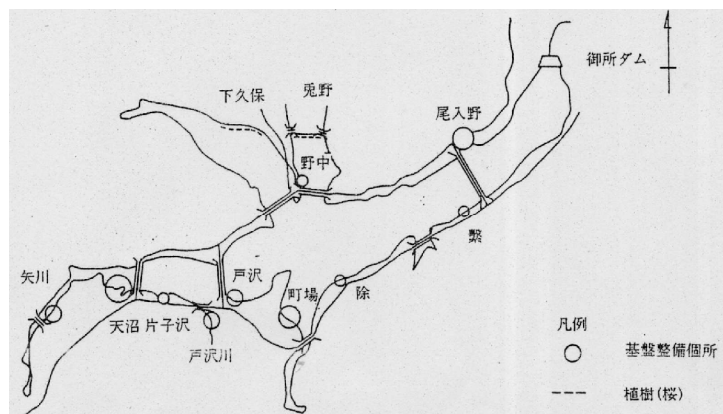


図-4 基盤整備事業実施箇所

### (3) 御所湖広域公園への進展

御所ダムの竣工約1年前の1980年9月、岩手県が東北新幹線開通記念事業として検討していた「御所湖広域公園」計画が都市計画審議会の承認を受け、都市公園事業としてスタートした。

御所湖広域公園の施設配置図を図-5に示す。主な施設は、以下のとおりである。

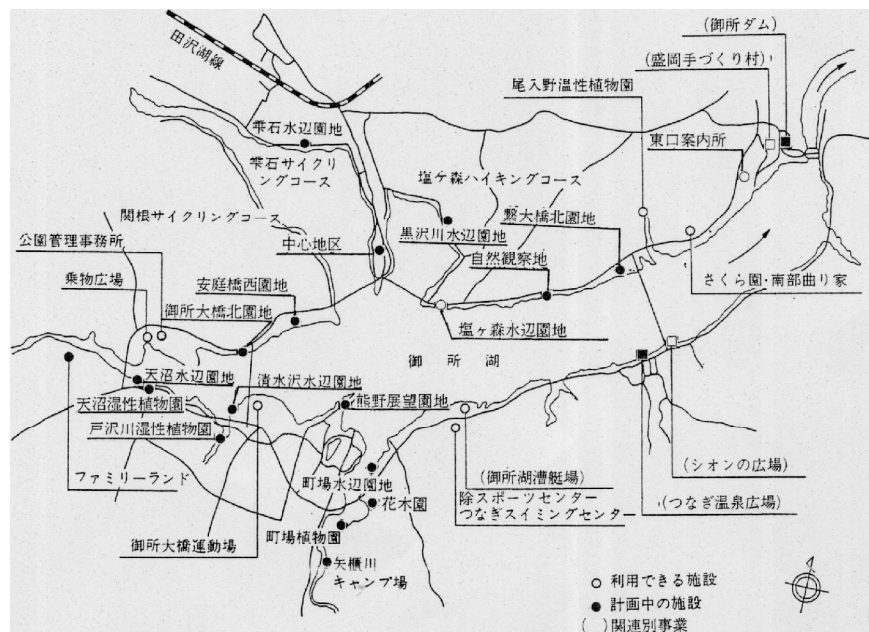


図-5 御所湖広域公園施設配置図

#### シオンの広場

御所湖のシンボルシオンの乙女像がある公園

#### つなぎスイミングセンター

東北最大規模の多目的スイミングセンターで、競泳プール、スライダープール等の設備を備えた総合スイミングセンター。

#### 盛岡手づくり村

盛岡地場産業振興センターと14の工房が一体となった体験学習参加施設。

#### 御所湖漕艇場

全国的にも数少ない好条件を備えている理想的な漕艇、カヌーのコースで、戸田、琵琶湖と並んで全国三大漕艇場といわれている。

#### その他

その他に水生植物園、乗り物広場、桜園等がある。

## 4. 便益の効果

御所湖は、河川の流況が比較的安定しているため、水位変動が少なく景観も優れていることから、ほぼ通年的に利用されている。また、御所湖の最大イベントは、7月の最終日曜日に開催される「御所湖まつり」であり、「森と湖に親しむ旬間」の行事として位置づけられ、花火をはじめとする各種イベントで、約7万人も集うほどの盛況ぶりである。

また、御所湖畔の繋温泉では、ダム完成前の1981年の訪問客が約30万人であったのに対し、1989年には約70万人と増加している。

一方、国土交通省直轄及び水資源開発公団の管理中のダムを対象として2000年に実施した「ダム湖利用実態調査」において、御所ダムは年間利用者数が約89万人で、第一位となった。内訳は、手作り工房を備えた手作り村、ゴーカートやサイクル列車を備えた乗り物広場等の施設の利用者が多い。



図-6 御所湖まつり



図-7 御所湖まつり

## 5. 成功の理由

御所湖周辺の環境整備関連事業は、ダム建設当初からの地域住民の要望であり、これらに応えるべく国、県、市、町そして住民が一体となって取り組んできたものであり、立地条件の良さも手伝って、その効果を発揮している。

## 6. 詳細情報の入手先等

### 参考文献

- 1) 佐々木勲：ダム周辺環境整備の事例 御所ダム，河川，1992.7
- 2) 高橋金兵衛：御所湖と地域活性化，ダム技術 No.43,1990
- 3) 御所湖の清流を守る会：御所湖ニュース 御所湖まつり特集号 2003.8.20

### 問い合わせ先

財団法人 新エネルギー財団 水力本部

住 所： 東京都千代田区紀尾井町 3-6 秀和紀尾井町パークビル 6F

Tel： 03-5275-9824

Fax： 03-5275-9831

Email： [hydropower@nef.or.jp](mailto:hydropower@nef.or.jp)